

第3回子どもの作品を見る会を終えて



1月15日(土)、ちえりあにて第3回子どもの作品を見る会が開催されました。今回は6名の先生方(伏見小の中川治先生と柿本美奈子先生、本郷小の池田武彦先生、あやめ野中の舘内徹先生、宮の丘中の石川早苗先生、千歳市北斗中の山崎正明先生)の実践発表が行われ、25名の参加がありました。

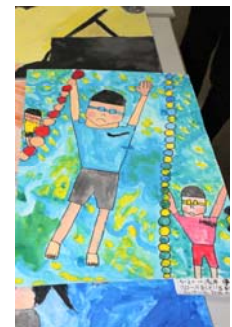


中川先生の実践「ゆめの木をつくろう」(2年生)より～自分の考えた種がゆめの木に育つという、子どもの思いの広がりや力が注がれた指導でした。また、絵の具の直描きの大切さについての話題もあがりました。

柿本先生の実践「えのぐであそぼう」「ふしぎなりのもの」「わたしの休みじかん」(3年生)より～色の混ぜ方やパレットの使い方など具体的なことが話題にあがり、用具の使い方やルールなどしっかりと定着させたいことについて話し合われました。



池田先生の実践「不思議アパートの住人たち」「心のスナップ写真から」(5年生)より～一人一人の子どもの思いを、確かな表現にしていこうためには、会話や相談などの子どもと教師とのやり取りの中で、描きたいものを明確にしていこうことが重要であることをあらためて感じさせられました。



石川先生の実践「ポスター」「紙粘土のピーマン」「スクラッチボード」「スタンプでの日本手ぬぐい」より～効果的な技法・技術の指導がすばらしい表現のもとになっていました。特に和模様の鑑賞を生かしたスタンプを用いての日本手ぬぐい製作については、教師の教材研究の大切さを実感させられました。





館内先生の実践「光の彫刻」「藤野の風景」より～先生方の発言にあった、中学3年生が自分の思い入れのある場所を描いたこれらの作品はどれも、風景画であると同時に自画像でもあるのではないかと一言がとても印象的でした。



わざわざ、千歳からかけつけてくださった山崎先生。先生の実践「街かど美術館」より～絵を通して子どもを知ってほしいという強い思いからの試みであり、美術を通して地域と子どもが繋がるという、美術の新たな可能性を知ることができました。



塚野会長より～今回は、どの作品も子どもがどんな思いでつくっているのかということがとてもよく表れていました。私たち教師は、このように子どもの思いを大切にすることを通して、子どもたちを育てていくという自覚を大事にしたいと思います。

6名の先生方、本当にありがとうございました！

今回の企画は、事業研修部の先生方が進めてくださいました。次年度は、幼・高まで広げて行いたいとのことでした。事業研修部の先生方、ご苦労様でした。

【 お 知 ら せ 】

※ 札造のホームページがリニューアルされました。ぜひご覧下さい。

<http://satsuzou.kir.jp/>